

## 第2回夕張鹿鳴館検討委員会

日 時 平成20年9月10日(水) 14:00～16:10  
会 場 夕張市役所 4階第2会議室  
出席者 委員  
佐藤淳子、政氏寿夫:(公募委員)  
青木隆夫、岡沼永人、源藤隆一、西田吏利、松宮毅:(委嘱委員)  
専門委員  
角幸博、木幡浩、東田秀美

### 1. 報告事項

- ・検討委員会構成員の再確認
- ・議事録(概要版)のホームページ公開について
- ・加森観光から本年10月での夕張鹿鳴館指定管理返上について

### 2. 議事

#### (1) 委員長・副委員長選出について

- ・委員長 木幡委員、副委員長 源藤委員で決定(出席委員了承)

#### (2) 今後の検討委員会開催日について

- ・各月第2金曜日を第1候補、第1金曜日を第2候補とし、状況により調整する

#### (3) 夕張鹿鳴館管理費実績について ~西田委員より

- ・単館では「不採算施設」である
- ・施設の老朽化による危険性が随所に見受けられる
- ・企業として10月には来年の営業体制を確定させなければならず、存続・廃止などの施設のあり方の方針が出ていないこともあり、指定管理返上を検討している

#### 【質問】

- ・夕張鹿鳴館の指定管理を受ける際、運営や収支の見込みはなかったのか? 19年度と20年度を比べて入場者減の要因は?

#### 【回答】

- ・平成19年3月に指定管理の契約を行っており、当時は各施設が雪の中で十分な確認ができなかった
- ・契約後、雪解けを待って各施設を確認したところ、老朽化の著しい施設箇所を発見したところ
- ・指定管理前は第3セクターの運営であったため、市職員に確認しても十分な情報が得られなかった
- ・入場者数については、去年は財政再建初年であったことから「破綻効果」があったものと思われ、本年についてはその効果も落ち着いたと思われる
- ・建物に関する責任は市にあり、会社としてもリスク回避を行いながら、他の効果のある施設を充実させたい

(4) 事例紹介について ~東田委員より

(5) 意見交換

- ・市民の力で夕張の歴史を残したい
- ・仙台市には夕張鹿鳴館に似た施設があり、そこではそば屋やみやげ屋があった。夕張でもできないか？
- ・中標津町ではNPOが1,500万円の解体費用を積み立てているが、NPOの活動に対する思いは？また、東田委員はどのような思いで活動されているか？(東田委員への質問)
  - 地域が好きだから、そう思う地域の方たちを助けたい、知らないことを伝えたい
- ・まちを愛する人たちにとって大切なのは、「日常の場」である
- ・例えばパークゴルフ場や市民会館も自分の生活関連の場だから復興した。しかし、鹿鳴館には市民の日常の生活との結びつきはない。従って残す前提の前に考えなくてはいけないことをもっと議論すべき
- ・市民中での「価値付け」が必要
- ・過去の経過も含めて時間をかけながら、住民に意識を持たせるべき
- ・市からの援助を期待しない中でのスタートである
- ・保存には市民から核になる小さなまとまりが始まらないと広く波及しない
- ・まず、この市民委員がやらないと難しいのでは
- ・夕張鹿鳴館の「ファンクラブ」づくりから始めてはどうか
- ・現時点では存廃に対する個人としての意見はまとまらない
- ・施設を解体すれば、残すべきか解体かという判断すらできないので、時間をかけて考えるべき
  - ・時間が経てばその経年が武器となり、建物としての価値が増す
- ・市外の方たちの夕張鹿鳴館を「大切」という思いが強ければ強いほど、より市民意識は希薄になってしまうので、市民の中から「大切」という思いを発信してほしい
- ・夕張の中における価値ある資産の再検討は必要
- ・観光リピーターが何度も訪れることが「本物の観光」であり、施設の陰・陽全てを見せる必要がある
  - ・建物の現状を考えれば、時間的余裕は少ない
    - 木造は鉄筋に比べ修繕しやすいので、優先順位をつけながら修繕すべき
- ・観光資源が多すぎるのも市民にとって負担となる
- ・ただの保存では意味がない、保存と活用を並行して考えるべき
- ・事例紹介にあったとおり柔軟に活用や管理を図っていくため、指定管理者制度に固執することはないのではないか

4. その他 次回は10月10日(金)の開催で確認

閉会(16時10分)